2021 年５月 16 日発行

大町山岳博物館友の会　第　187　号

ゆきつばき通信

行事のご案内

自然観察会　八方尾根を歩く（友の会主催事業）

八方尾根は特殊な地質により標高 2000m付近の八方池でも高山植物を楽しむことができます。動植物に加え、地形地質も含めて総合的な自然観察会を楽しみたいと思います。なお、7 月 17 日より企画展「北アルプスの誕生とそこに息づく高山植物のものがたり」が開催されます。

《期　　日》　2021 年 7 月 22 日（木・祝）午前 10 時～午後 4 時（現地）
雨天中止（2-3 日前に実施の判断をします）

《場　　所》　白馬村八方尾根　黒菱平～八方池　往復

《集合解散》　集合：八方尾根　黒菱平（鎌池湿原）　午前 10 時　（アルペンクワッドリフト終点、黒菱第 3 ペアリフト終点　八方アルペンラインはゴンドラ～アルペンクワッドリフト、黒菱林道からは黒菱第 3 ペアリフトを使ってください）
解散：八方尾根　黒菱平　午後 4 時

《対　　象》　友の会会員　子ども～大人（会員知人同伴可）

《募集人員》　20 名（定員になり次第締切）

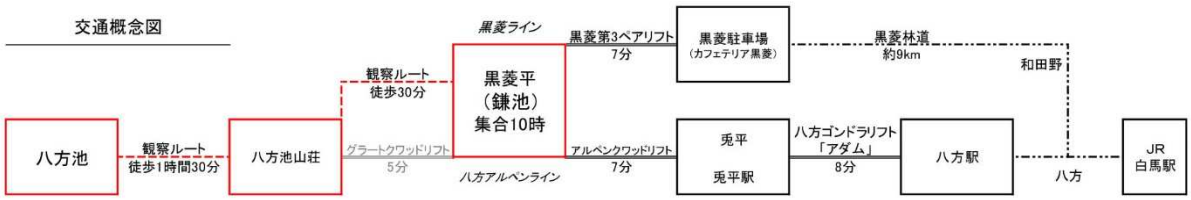
《講　　師》　千葉悟志学芸員

《参 加 費》　500 円　集合場所までの交通費は各自で負担してください。

《持 ち 物》　防水防寒具　帽子　サングラス　筆記具　昼食　飲み物　必要に応じて観察用具、図鑑等　マスク着用
観察記録用のＡ４バインダーを現地でお渡しします。軽登山装備で、リュック一つにまとめてください。

《申し込み》　6 月 1 日～7 月 15 日まで　電話・FAX または直接、友の会事務局へ（Tel/Fax0261-23-6334）
感染症対策として、現地（黒菱平）集合、現地解散です。

《当日連絡》　090-8439-6108（丸山優子）



集合場所の黒菱平まで、黒菱ラインで往復 1000 円ほど、八方アルペンラインで往復 3000 円ほどかかります。

SDGs 4　質の高い教育をみんなに　自然観察会（含自然観察登山）の年 1 回以上の主催（含共催）実施
SDGs 13　気候変動に具体的な対策を　生態系への影響とも関連付ける
SDGs 15　陸の豊かさも守ろう　陸の生態系、生物多様性を保全回復する

特別展 さんぱく収蔵コレクション　北アルプスに生きた動物の記録

同封案内のように、7 月 11 日まで開催されています。
ミュージアムガイドはこの後、6 月 20 日（日）に行われます。また、標本づくり講座が 6 月 5 日（土）・12 日（土）に行われます（要申し込み　両日参加できる方）。

栗林学芸員によるミュージアムガイド（4/24）より
今回の企画展示は、なかなか見る機会のない山岳博物館の収蔵品を、広く紹介することを目的とし、大町周辺から北アルプス山頂までをイメージして展示している。
北アルプスにも深海生物！ということで、化石として、2-3 億年前（古生代末）のウミユリを展示している。白馬山頂付近のもので、わかりやすい購入品も併せて展示している。
ライチョウは、冬羽のものを集めている。ライチョウは冬は群れで生活しており、多くのはく製を生態さながらに展示できるのも山博ならではである。
大町の麓の生物として、ウソやキクイタダキ、サギの仲間の珍しいヨシゴイやミゾゴイなども展示している。オオワシは池田のものである。大町で新種として発見されたシナノホウヒゲコウモリもある。カモシカは人工繁殖に成功している希少例であり、個性豊かな飼育カモシカの写真も展示した。トキは、大正時代の美麻のもので、文化財といえる。

ヤマイヌ（狼）の牙とされるものがある。本当にニホンオオカミのものであるか詳しくはわからないが、お守りとされたようで、民俗学的な史料である。
蝶のうち、ギフチョウは田淵行男の標本である。
今回の企画展示を通して、新たな発見のヒントとなればと思う、ということである。

報　告

令和３年度山博友の会　総会

《期　日》　４月 18 日（日）　午後３時 30 分　～　５時 00 分
《場　所》　山岳博物館講堂
《参加者》　36 名

今年度の友の会の総会が去る ４ 月 18 日に行われました。

（宮澤会長あいさつ）　山博友の会は、山が好き、自然が好きな人の集まりで、コロナ禍であったが工夫して事業を進めている。今年も新たな活動をしていきたいのでよろしく審議されたい。矢野先生の講演も一年延ばしであったが、新しいアイデアにつながる。
（鈴木館長あいさつ）　今日は、山は雪となっている。館長となって、雪が少ないが、来年はぜひ降ってほしい。コロナ禍の制限の中でもいろいろ活動している。これからも山博を支えてもらいたい。

以後、西田均氏を議長に、次第に沿って進行しました。令和２年度報告、令和３年度役員、事業、予算とも承認されました。友の会の博物館協力事業として、山博 70 周年にあたり、双眼鏡 10 台を寄付することとなりました。博物館での観察会だけでなく、友の会の観察会にも活用します。

（長沢顧問あいさつ）　友の会も世の中と同じように変わってきている。30 年ほど前、家族会員の子供も多く、事業を懐かしく思う。昨年できなかった矢野先生の講演もできてうれしく思う。博物館を中心に盛り上げていきたい。

令和３年度山博友の会　総会記念講演会

大町市にみる　岳（たけ）・野（の）・湖（こ）・山（やま）　　矢野孝雄先生

《期　日》　４月 18 日（日）　午後１時 00 分　～　３時 00 分
《場　所》　山岳博物館　講堂
《参加者》　46 名（職員・役員を含む）

講演要旨

（鈴木館長あいさつ）

矢野先生の経歴を紹介された。矢野先生は、2016 年度から 2019 年度まで山博の専門員であったときは、地学展示コーナーを充実し、収蔵標本登録をされた。博物館紀要にも多く書かれている。２階では、岳野湖山をまとめたパネル展示を行っている。

大町市の自然景観をゾーニングすることによってそれぞれの特徴がとらえやすくなり、また、全体も見えてくる。

（前半；岳野湖山の生い立ち）

岳をかまぼこ、東**山**をはんぺん、安曇**野**を玉子焼きとして、北アルプスはかまぼこのように大きく隆起し、東**山**は縁は比較的急傾斜だが、全体が隆起したようになっている。二つの隆起帯に挟まれた**野**に発達する扇状地は、アルプス側は数は少ないが大きく、東山側は数は多いが小さい。

「山」東**山**の隆起は 80 万年前頃から。長野方面から見ると、比較的平坦であることがわかる。

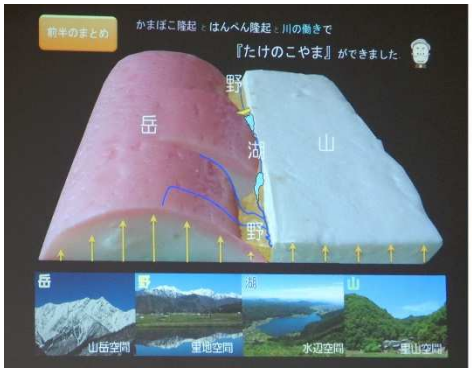
「岳」アルプスを作ったのは二つの原因がある。横から押す力で波打つことと、地下からのマグマの押し上げによる。アルプスの地震分布は、マグマのところで深くなっている。これらは日本列島を作った地殻変動であり、複雑な地質構造を持って、変動量も大きい。

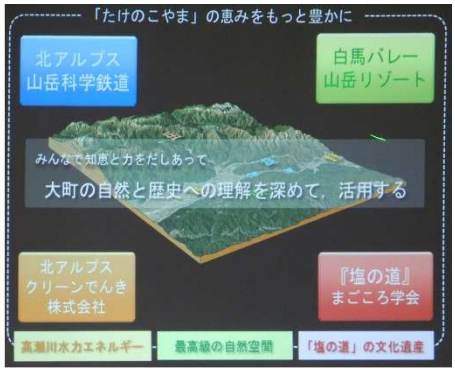
「湖」仁科三**湖**のでき方は、断層湖や構造湖といわれてきたが、青木も木崎も堰止湖である。青木**湖**は約 3 万年前の佐野坂崩れにより、木崎**湖**は数千年前以前からの鹿島川扇状地の発達による。古くは、中綱の南に谷中分水嶺があり、遠見尾根から仁科山地にかけての張り出しがどのようにしてできたかが「湖」の形成の根本原因となるが、地殻変動が最高級の自然空間を作り上げたといえる。

（後半；豊かな恵み）

「岳」白馬方面は軟らかく地すべりしやすい地質により多雪と相まってスキー場が発達した。大町付近は硬い地質で、節理の発達によって直線的な地形が発達し、V字谷に設けられた大町ダムの電力が地産地消できれば、このエリアは自然エネルギーでまかなえる。雪の主稜に低い前山が重なることによって後立山は美しい。北陸新幹線を大町まで伸延し、大糸線から山岳鉄道を仁科山地から遠見尾根に通し（北アルプス山岳科学鉄道，勾配は比較的緩い，山岳環境研究拠点や高山生態系の避暑地も作る）、ケーブルで黒部峡谷に降りれば、富山周りでアルペンルートとつながり、ループコースとなる。

「塩の道」大北の人は、他人事を自分事としてとらえる「まごころ」を持っている。それは、隆起帯を越えていく塩の道をルーツとしているのではないか。地域の原点を研究する「塩の道まごころ学会」が立ち上がる。





（まとめ　～夢物語～）

岳野湖山の地形を活用した、「高瀬川水力エネルギー」、「最高級の自然空間」、「塩の道文化遺産」を人口問題対策に役立てていく。「白馬バレー山岳リゾート」、「北アルプスクリーンでんき（株）」、「北アルプス山岳科学鉄道」、「塩の道まごころ学会」を設立。

「夢物語」としてまとめることにより、地域の成り立ちと魅力がより具体的に理解できたお話でした。今後、矢野先生のご指導により、岳野湖山のフィールドワークも実現できればと思います。　（編集担当　記）

［感想文］

「大町市にみる　岳（たけ）・野（の）・湖（こ）・山（やま）」　愉快な例えに脱帽！！

仙波美代子

岳・野・湖・山というタイトルに先ず惹かれ、あの柔和な矢野先生がどのような語り口でお話をされるのかという、いささか本題とは離れた興味津々で講演会に参加しました。

大町といえば北アの峰々、山の中腹に雲が浮かんでいたりすることもあって、なんだか空中に浮かぶ岳、という感覚的な捉え方をしていたように思います。そんなことはない、岳もこの地球の突起であることは百も承知の自明の理であり、ふもとから一歩、一歩登っていくわけですが・・・。

岳のてっぺんから湖の底までの成り立ちを大きく捉える視点で、しかも想像を超える突飛な「かまぼこ」や「はんぺん」などの例えでの解説に、笑うわ感心するわ、食いしん坊の私には忘れられないお話となりました。夏にはあれこれ登山を計画していますが、アルプスの縦走途中で「かまぼこ」が脳裏に去来したら、ヘナヘナと座り込むか、ずっこけるかもしれないので、用心しなければなりません。

大町に移住して 30 年が経過しましたが、これまでの自然に対する視点があまりにも短絡的で岳・野・湖・山をそれぞれ単体として視ていたことに気づきました。連綿と続く地球と人類の歴史の上に今の我々の生活があることを肝に銘じて、土に親しみ、山路を歩く日々を過ごしていきたいと思います。

探鳥会 in 大峰

《期　日》　5 月 9 日（日）　午前 8 時　～　12 時
《場　所》　池田町大峰山一帯
《参加者》　19 名

さいわい好天に恵まれ、昨年実施できなかった探鳥会が栗林学芸員を講師に実施された。

前半は山頂付近の白樺の森を途中 2 か所でしばらくとどまって散策観察を行い、後半は、大カエデから林道を南に回って、直下から大カエデに戻るコースを歩いた。

大型連休はやや冷え込んだものの回復し、ウグイス、キビタキはにぎやかに、クロツグミは梢でさえずり、ゆっくりと姿を見せてくれた。

出現鳥は 26 種。鷹狩と比較してやや少なめかもしれないが、標高差が小さく、里の鳥がほとんどいなかったこともある。

探鳥会をメインとしたが、春の観察会であり、ウワミズザクラなどの花にも目を配り、爺ケ岳カルデラから来た凝灰岩も観察した。山望は北アルプスはもとより、火打・焼山などの頸城の山々も望めた。また、新しい参加者がいてくれたのもうれしかった。栗林学芸員には、もし、いたら注目！というような鳥の分布の変化も含めて資料を用意し、ご案内いただいた。　（担当役員　記）

［感想文］

たのしかったね！
しっぽのながいとり、
ひろばでみたね
よく、いっぱいあるいたでしょう
あるくのがたのしかった！
“ようせ”が好き！
いがらし　しゅうへい

『どんな鳥を見た？クロツグミ？　キビタキ？・・・』
「ちがう！ほら、しっぽのながいとり。ひろばでみた…」
フィールドスコープで見せていただいた鳥を答えると思いましたが、違うといいます。やっと思いついて、
「サンショウクイ？」

「そう!　さんしょうくい！」
　やっと、**広場**がどこか思いつき、**しっぽのながいとり**がサンショウクイなのだと思いつきました。そうか、サンショウクイはしっぽが長いのか…
　“**ようせ** ”＝西洋タンポポでした。日本タンポポとセイヨウタンポポの違いをおしえてもらってから、なんとしても“ようせ”になってしまうようです。
　池で浮かんでいるのが桜の花びらだと教わって、「小さなお舟」とつぶやいたのも印象的でした。
　楽しい一日をありがとうございました。　　宮澤陽美

［山岳博物館主催］

研究報告＆座談会「山のサイエンスカフェ in さんぱく 2021」

《期　日》　3 月 7 日（土）14 日（日）　午後 1 時～午後 4 時 30 分
《場　所》　山岳博物館講堂

　令和２年度の山博の研究報告＆座談会が 2 日に分けて各 3 題ずつ行われた。
前期は次の３題。

1)　**爺ヶ岳の雪形伝承と山名由来**（関学芸員）
　私たちにすっかり定着している爺ヶ岳の雪形、種まき爺さん。伝承を含めると明治以降のものとなってくる。さらに、それが農業に活用された証拠はない。現在３峰をまとめて爺ヶ岳と呼称しているが、これも地形図ができた大正期以降のことで、祖父や爺子の文字が使われ、爺ヶ岳の文字は昭和 37 年以降とずいぶん最近のことであった。古くは南峰のみがジイガタケと呼ばれ、恐らくは南の爺さんとの関わりがあったと推察された。（山岳博物館紀要№5 を参照ください）

2)　**希少動物を守るには？**
　　～ライチョウ保全の最前線と博物館の役割～（栗林学芸員）
　希少動物、絶滅危惧種とは、そして天然記念物とは。天然記念物はその個体数は関係なく、希少動物（希少野生動植物種）は絶滅の恐れのある野生生物のうち、「人為の影響により」存続が危ぶまれもので、種の保存のため生息地等保護や増殖が行われる。現在 1700 羽とされるライチョウの生態の説明から保存のための域外保全、域内保全が語られた。シミュレーションを含めた中央アルプスでの復活活動、動物園で繁殖したライチョウの放鳥の可能性など、課題の多い中でこれからの教育普及の必要性も語られた。

3)　**気候変動はなぜ起こる？**（鈴木館長）
　ゼロカーボンとなれば温暖化は止まるのか、温暖化にはどのような仕組みがはた

らいているのか。太陽エネルギーの収支や温室効果ガス（水蒸気が５割、二酸化炭素は２割）の働きなどが解説された。そして、南極氷床コアの数 10 万年にわたるサンプルから得られる気温と二酸化炭素濃度のデータは、地球軌道のリズミカルな変化の合成、ミランコビッチサイクルを基本に変化し、氷河の消長とともに地球の気温に影響していることが話された。このような因果関係に基づく科学性が語られた。

後期は次の 3 題。

4)　花と昆虫、ふしぎな関係にせまる（千葉学芸員）

フクジュソウとササユリをとりあげ、花の開花や虫を集めるためのしたたかな仕組みを紹介し、偶然の組み合わせの進化の結果かもしれないが、いかに子孫を残していくか、長年の訪花昆虫の観察から画像を含めてお話いただいた。2021 年度の夏には北アルプスと高山植物の企画展が行われるとのこと、また、深い話が聞かれると思う。

5)　センサーカメラを用いた野生動物の観察
～大町市内の野生哺乳類のいま～（藤田学芸員）

藤田さんは大町に来て１年、博物館の動物担当になるに当たって、大町の動物のリストを調べたのは 40 年近く前の市史のものであった（それには、イノシシやニホンジカの記載がない）。そして、センサーカメラを大町市や周辺に（許可をとって）仕掛けて調査を実施した。そして、もちろん、イノシシもニホンジカも撮影された。ハクビシンや特定外来種のアライグマは来ているのか？撮影された画像とともに今の時代の調査の必要性が語られた。

6)　佐野坂丘陵と青木湖の成立ちをさぐる（太田専門員）

松本盆地のいちばん高いところになぜ湖が３個もあるのだろう。青木湖の北岸である佐野坂丘陵は、佐野坂スキー場の上の方が崩れて堆積したとみられるが、崩れた跡と丘陵にはずれがある。斜めに落ちたのか、落ちてからずれたのか。青木湖の周辺の地質を抑えたうえで、堆積物中の岩石と西側の地形から見えてくる断層の想定から、崩落後に断層で横ずれしたと仮定した。当日の資料には（予報）が付いた。謎の佐野坂丘陵の秘密を解く糸口がつかめたようだ。

そのあとの座談会はちょっと短かった。発言の手が挙げにくかった。報告が各回３題もあるのだから、それぞれに 30 分以上はほしいところ。半日 1 題として、学芸員どうしコメントもするなど、そんな時間になればよかったと思う。ぜひこれからの実施も楽しみである。　　（記　編集担当）

烏帽子の会

活動報告　《岩州（いわす）公園》

《月日》4 月 25 日（日）　　《天気》うす曇り　　《参加者》18 名

《コース状況：その他周辺情報》

岩洲公園は、旧明科町、生坂村境にあり、京ヶ倉（929m）東の谷を隔て岩殿山（1007m）から南に延びる尾根筋に位置する。一帯は、かつて山城があった歴史のある場所で、尾根道の一部は昭和 30～40 年代頃までは生活道路として使われていた。平成に入り公園内に生坂村・旧明科町教育委員会が解説板を設置している。

以下、公園内に設置している主な解説板の内容　----------

○蛇岩・・・岩が蛇のように起状していたり、岩蛇がよく出てきたので名がつけられたという。

○白州・・・大正時代まで日照り続きで困った時、潮沢の人々はここで百八燈のたい松をたいて雨乞いをした。

○投超岩・・・向かって右は男岩、左に女岩、子どもが欲しい夫婦が岩に願いをかけ、岩へ片手をついたまま小石を投げ、男岩を越せば男の子、女岩を越せば女の子が生まれるという。

○猿飛岩（烏帽子岩）・・・形が烏帽子に似ている。猿が跳んで遊んだ岩といわれている。

○高松薬師城跡（横谷城）・・・丸山氏の山城（標高 870m）元禄 11 年書上帳に載る。岩洲の頂上に 8×7mの本城、南に小空堀と自然の地形のくるわ 27×4mがある。北の下段に馬をつないだという馬やくぼがある。東に自然の地形のくるわ 20×10mがある。西に空堀跡が二条あり、その間にくるわ 30×6mがある。更に尾根続き 800m西に古峰社跡見張所があり、万平や日置城と連絡を取る。水の手は城裏の杉林にあった。東の潮沢側にかくれ山、明賀山、古屋敷の地名がある。

○不動岩・・・明治 10 年代に成田山の不動様を勧請して岩に社を彫り刻んで祭る。願い事を称えてから小石を社の穴へなげ、落ちなければかなうという。岩上の不動尊は南安烏川村上堀の丸山与作の彫刻、日岐、上生坂方面の眺望がよい。

○六地蔵（小立野入）・・・300 年以上昔から小立野入村と潮沢村で建てる。この峰通りは沢通が崩れた時に善光寺道の裏通りとして古くから人々が通行し、霊魂が極楽に行けるようと拝んだと考えられる。頭のないのは罪人が身代わりになって下さいと持ち去ったといわれる（頭のないお地蔵様はなかった）

《感想》

昨年に続き、コロナ感染症流行時の実施であったので、感染防止につとめた。全体的に滑りやすい砂山のイメージが強く、点在する砂岩の巨岩、赤松林と落葉広葉樹の混合林の公園である。赤松の多い場所は、落ちた松葉で滑りやすく、落葉広葉樹の多い道は、道が解りにくく、けもの道が多く迷いやすい。公園と言っても気が抜けない登山道であった。今回は総会を兼ねた例会であったが、創立 20 周年の年に当たり総会は、5 月に時間を取り実施することにした。

《コースタイム》

9：10 池田道の駅出発⇒9：40 六地蔵・岩洲公園分岐に駐車出発→10：35 秋葉社鳥居前→蛇岩→10：20 岩洲公園東屋⇔白州園庭⇔夫婦岩⇔投越岩⇔11：20 烏帽子岩（猿飛岩）→11：20 岩洲公園東屋⇔11：35 馬やくぼ⇔11：56 不動岩⇔12：20 高松薬師場跡→岩洲公園東屋→12：30 秋葉社（昼食）13：00 出発→13：35 駐車場⇒14：30 池田道の駅

参　加　感　想

中山登志男

4 月 25 日「烏帽子の会」18 名の参加で、生坂村と旧明科町境の昔、仁科族であった生坂の日岐丸山城の南部地域要であった「高松薬師山城跡」、その支城の「猿ヶ城跡」、岩洲特有の巨岩、崖の多い「岩洲公園」を 3 時間ほど散策した。

曇りの天気であったが、遠くに鉢伏山、美ヶ原、筑摩山地の山、烏帽子の会で登った十観山、聖山、京ヶ倉、大城、大峯高原、池田町東山まま子落し、そして北アルプスが木々の間から望めた。足元には、咲き始めのヤマツツジ、新緑にカスミザクラが映え山肌の美しさに感動しながら歩いた。

一週間前下見に出かけた時は「ヒカゲツツジ」の 5 分咲きを見て、今回まで花が残っていることを願った所、すでに盛りは過ぎていたが烏帽子岩にアイボリー色の「ヒカゲツツジ」が確認できて一安心した。ここ烏帽子岩、猿ヶ城跡の 1km 先（北方）は、この山から採掘された石炭の運搬、そこに働く人夫、日本海からの海産物が通った萱野峠（明治 11 年英国の偉人アーネストサトーが越えた峠）である。その下を東側に下れば西条へ、又、川を下流に行くと 15 番札所「岩殿寺」があり、この尾根は善光寺道の裏道として利用されていたようだ。峠を下らずにそのまま進むと修験道の山「岩殿山」である。

烏帽子岩から山城跡の下を西へ行った所に砂岩の岸壁に神殿が刻まれた「不動岩」があって、その中に小石をなげ入れると願いが叶うとの言い伝えがあり、皆で小石を投げてチャレンジした。その近辺ではひときわ高い「高松薬師城」（別名横谷城）跡へ登ってみた所、意外に狭い場所に驚いた。山城でも特に小さな貧弱な建物だったと

想像された。南側に光城山が見ることが出来て、往時は松本城からのろし台を兼ねた山城であったようである。

帰路、整備された町村境の尾根道（林道）を車で進むと、六体の石仏にまだ新しい赤色の帽子に前掛けを付けた「六地蔵様」が奉ってあった。信仰心の深い土地柄である。「曼陀羅の里」ならではのことであると感じた（筑北、会田とその周辺に名付けた土地名が曼陀羅の里）。そこからは、昔多くの人が住んでいた廃屋の残る南斜面を下り潮沢の国道に出て池田道の駅に無事に帰った。

皆さんの協力で楽しい山歩きが出来、ご苦労さまでした。終りの会で近い時期に「アーネストサトーの歩いた萱野峠越え」の企画について提案して解散した。

次回は、5 月 22 日（土）に、西田均さんによる勉強会「高齢者のための登山教室」と鷹狩山登山、総会を予定しています。なお、サークル人数が多くなったため、烏帽子の会の新規募集はしておりません。

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ボランティアサークル

今年の本格的な活動は、大型連休の付属園まつりのサポートから始まりました。あいにくの天気の日が続きましたが、ライチョウガイド、動物折り紙補助、クイズラリー受付、鷹狩山ツアー補助および館内ガイドに延べ 33 名の活動がありました。来園者も、ふぞくえんクイズラリーには 150 名余り、ライチョウガイドには 900 名余りを数えました。

６月 7 日には動物標本室の改修が予定されており、多くの方のお手伝いをお願い

表彰状

大町山岳博物館友の会
ボランティアサークル様

あなたは永年にわたりボランティアとして地域福祉の進展のための尽力された功績は誠に顕著であります
よって記念品を贈り表彰します

令和三年二月二十日
社会福祉法人大町市社会福祉協議会
会長 中村勝彦

します。また、定例の活動のほか、こども夏期だいがくなどの博物館事業に協力します。

なお、去る２月、ボランティアサークルが大町市社会福祉協議会様より、社会福祉功労として表彰されました。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ゆきつばき通信編集室より

ゆきつばき通信 187 号をお届けします。今年度は、いろいろ制約はありますが、事業がスタートしています。今年は山博 70 周年の記念の年、友の会も充実した年になればと思います。

通信次号は 8 月を予定しています。ご案内できなかった博物館の夏の事業等は、博物館ホームページ、山と博物館（6 月発送）でご確認ください。

右のトガクシショウマは、副会長・顧問をされた武田武さんからいただいたものです（実生）。総会の日、山岳図書資料館横できれいに咲いていました。

（丸山卓哉）

武田武さんのトガクシショウマ

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

新しい方を友の会にお誘いください

年会費　　ファミリー 4,000 円　　個人 3,500 円　　学生 2,000 円

※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
４月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。
賛助会員につきましてはお問い合わせください。

会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会

博物館窓口では会費を扱いません。総会以外での納入は下記振込みでお願いします。

ゆきつばき通信　第 187 号
発行／大町山岳博物館友の会　　2021 年 5 月 16 日
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334